

たより

～中島小学校 社会科公開授業～

歴史教材『わたしたちのまち伊勢』を活用して

伊勢市立中島小学校では、歴史教材『わたしたちのまち伊勢』を活用した社会科の授業が公開されました。



「明治維新から世界の中の日本へ」という単元で、伊勢と結びつきの強い尾崎行雄にスポットをあて、その業績を通して日本の近代化について学ぼうという授業でした。

導入の部分で、武久先生が「尾崎行雄のことで、一番ドキリとしたことはどんなことですか。」と質問すると、さっと手が挙がります。

25回も当選したことや病床からも立候補したことなどをとりあげる子どももいれば、憲政の神様と呼ばれていたことをとりあげる子どももいます。子ども達のどの発言からも、これまでの調べ学習の積み重ねが感じられます。

子ども達の発言を受け、先生が「今回の選挙は46回目です。」と、この日の朝刊のトップページを提示しました。何名かの子がうなづきながら、25回という数字の重みに気づいていきます。なるほど、先生のアイデアが光ります。

電子黒板に尾崎行雄の写真が大きく映し出され、当時の人々が彼にどのような政治を求めていたのかを考えていきます。今何を考えるのかが明確に指示されるので、子ども達はしっかりと集中できています。ICT機器の力は大きいですね。

尾崎行雄が深くかかわった自由民権運動について学習する場面では、運動がはじまった頃の様子や目的が再確認されました。NHKの「自由民権運動の弾圧」を視聴した子ども達は、命がけの運動であったことや当時の人々の願いの強さに納得した表情でした。また、この時代に民主主義や世界平和の実現に一生を捧げた尾崎行雄の生き方にふれることもできました。調べたことを確認し、考えを深めることの大切さが実感できる授業でした。

アンケートより

(一部抜粋)

- ・豊富な資料と教材教具を使った授業は、大変参考になりました。また、『わたしたちのまち伊勢』を使った授業を初めて参観させていただきました。今後、自分が指導する時も利用したいと思いました。いろいろな学年で使っていいのではないかと思います。
- ・素晴らしい授業を見せていただきました。以前、郷土史家の間宮先生から、「伊勢はすごくいいところです。博物館や記念館がいくらかでも建つほどの出来事があり、人物がいきました。」とお伺いしました。伊勢の歴史を子ども達にどんどん伝えていくことが大切だと思います。尾崎行雄は、小学生には難しい教材だと思いましたが、とてもうまく展開された授業だったと思います。
- ・電子黒板の活用方法がとてもよくわかった。小学校では、特に調べ学習がよくされており、感心しました。いかに考えさせるか、自分自身もこの点に気をつけて授業をしたいと思いました。
- ・中学校1年の社会科を教えているので、中学校と比較しながらを見せていただきました。授業で勝負する先生の姿に教材研究の深さを感じ、教具の数々に授業へのこだわりを感じました。社会科だけでなく、総合学習やクラスづくりを組み合わせ、授業の効果を高めていたように思います。ありがとうございました。

歴史教材『わたしたちのまち伊勢』

伊勢市教育委員会では、7年間にわたる伊勢市の歴史研究の一つの節目として、歴史教材『わたしたちのまち伊勢』を作成し、各小中学校に42部ずつ配布しました。伊勢市の子ども達がふるさとを学ぶ一助になればと考えています。

研究を積み重ね、伊勢の歴史を紐解いていくと、その時代を生きる人々の生活が見えてきます。今に残る数々の遺跡や文化財、祭りや風習、先人の偉業等の背景には、人々の希望や願いがあります。また、伊勢神宮のおひざもとということもあり、伊勢特有の歴史や文化も残っています。

この歴史教材は、多くの資料の中の一部をまとめたものです。他の資料も教材として使用できるよう、イントラネットに掲載しています。ぜひ、ご活用ください。

